



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社フジタコーポレーション
 コード番号 3370 URL <http://www.fujitacorp.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 藤田 博章

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役

(氏名) 清水 清作

TEL 0144-84-8888

四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	3,571	△7.4	△9	—	△46	—	△50	—
28年3月期第3四半期	3,859	△9.3	88	58.8	64	287.7	58	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	△35.14	—
28年3月期第3四半期	59.26	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	3,828	105	2.7	72.65
28年3月期	4,018	150	3.7	103.92

(参考)自己資本 29年3月期第3四半期 105百万円 28年3月期 150百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,778	△7.2	△9	—	△65	—	△140	—	△96.79

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	1,446,400 株	28年3月期	1,446,400 株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	79 株	28年3月期	79 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	1,446,321 株	28年3月期3Q	984,417 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想等の将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間のわが国経済は、政府の経済・金融政策により、企業収益や雇用環境の緩やかな改善傾向で推移しましたが、新興国の経済減速や英国のEU離脱等の国内経済への影響の懸念から、個人消費の回復には至っておらず、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

飲食業界におきましては、原材料の高騰、人材不足、同業他社との顧客獲得競争の激化等、依然として厳しい状況で推移しております。

このような経済状況のもと、平成26年4月に策定した経営改善計画に基づいて不採算店舗及び事業からの撤退を推進してまいりましたが、平成28年3月に株式会社アスラポート・ダイニングと「業務資本提携契約」を締結し、当社のオリジナルブランドであります「かつてん」のフランチャイズビジネスの共同構築のモデルとなる店舗の出店、不採算店舗を高収益が見込まれる業態への転換や新規ブランド店舗の出店を進めてまいりました。

当第3四半期会計期間末における当社の展開業態及び稼働店舗は19業態77店舗(前年同四半期末、18業態79店舗)となりました。店舗数の減少、業態変更工事の長期化等の影響により、当第3四半期累計期間の業績は、売上高3,571百万円(前年同四半期比7.4%減)、新規・業態変更後の開店が当四半期に集中し、人員確保をはじめとする開業費が膨らみ、営業損失9百万円(前年同四半期、営業利益88百万円)、経常損失46百万円(前年同四半期、経常利益64百万円)、店舗の閉店に伴う店舗閉鎖損失56百万円等の特別損失を計上したことにより、四半期純損失50百万円(前年同四半期、四半期純利益58百万円)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 飲食部門

当第3四半期累計期間における飲食部門におきましては、フランチャイジー事業はフランチャイズ本部主導の販売促進活動を、オリジナルブランド事業は、季節ごとの限定商品の提供を継続し、スマートフォンのアプリやクーポンを使用して特定商品を訴求することで客単価増やリピート顧客の獲得に努めてまいりました。

飲食部門の当第3四半期会計期間末の店舗数は、2店舗の閉店があったものの、新規業態の「かまどか」、「しゃぶしゃぶ温野菜」、「牛角」、「熊本らーめんおっぺしゃん」、既存業態の「ベビーフェイスプラネット」、「かつてん」を出店したことにより65店舗(前年同四半期末67店舗)となり、当第3四半期累計期間の売上高は2,902百万円(前年同四半期比7.1%減)、セグメント利益1百万円(同98.0%減)となりました。

② 物販部門

当第3四半期累計期間における物販部門におきましては、飲食部門と同様にフランチャイズ本部主導によるスマートフォンのアプリやクーポンを使用した商品及びサービスの提供や販売促進活動に加えて、来店顧客向けの店内イベント開催や、季節に合った商品訴求のための売場づくりを行ってまいりました。

物販部門の当第3四半期会計期間末の店舗数は、前年同四半期と同数の12店舗となり、当第3四半期累計期間の売上高は669百万円(前年同四半期比9.1%減)、セグメント損失11百万円(前年同四半期、セグメント損失8百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は854百万円となり、前事業年度末に比257百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が269百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は2,974百万円となり、前事業年度末に比べ67百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が28百万円、投資その他の資産が39百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は3,828百万円となり、前事業年度末に比べ189百万円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は899百万円となり、前事業年度末に比べ103百万円減少いたしました。これは主に1年内返済予定長期借入金が120百万円、短期借入金が51百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は2,824百万円となり、前事業年度末に比べ41百万円減少いたしました。これは主に長期借入金55百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、3,723百万円となり、前事業年度末に比べ144百万円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は105百万円となり、前事業年度末に比べ45百万円減少いたしました。これは主に、四半期純損失の計上により、繰越利益剰余金が50百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は2.7%(前事業年度末は3.7%)となりました。

(3) 業績予想等の将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の通期業績予想は、平成29年2月10日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響額は軽微であります。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、平成26年4月に策定した経営改善計画に基づき、不採算店舗の閉店及び譲渡を行った結果、前年同四半期に比べ2店舗減少したことに伴い、当第3四半期累計期間の売上高は前年同四半期に比べ7.4%減少しました。

不採算店舗及び事業からの撤退による店舗数の減少に伴う事業規模の縮小傾向に歯止めをかけ、早期に経営基盤の安定を図るため、販売管理費の徹底した削減を継続するとともに、前事業年度に資本の増強を目的とした第三者割当増資を実施し、前事業年度末において債務超過を解消いたしました。

しかしながら、当第3四半期累計期間において、営業損失9百万円、四半期純損失50百万円を計上し、依然として厳しい経営環境で推移しております。また、当社の有利子負債は3,109百万円と総資産の81.2%を占め、手元流動性に比して高水準にあるため、取引金融機関から返済条件の緩和を継続して受けている状況にあります。こうした状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、以下のとおり当該重要事象等を解消するための対応策を実施しているため、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められません。

事業面におきましては、期間限定商品やサービスの訴求、スマートフォンのアプリやクーポンを使用した効率的な販売促進活動による収益確保と販売管理費及び設備投資の抑制等のコスト削減を両立し、収益力の強化に努めてまいります。また、平成28年3月に株式会社アスラポート・ダイニングと「業務資本提携契約」を締結し、飲食事業、卸売事業、製造・販売事業を組み合わせた販売コストの削減及び新規事業の共同開発等を行って、より安定的に営業利益及び営業キャッシュ・フローを獲得し得る体制を構築してまいります。

また、資金面におきましては、当社の主力取引銀行の支援のもと、取引金融機関に対し、長期借入金元本の返済条件の緩和継続を要請し、同意を頂いております。経営改善計画の確実な遂行により、その後も継続的な支援を受けられる見込みであります。

当該金融支援と経営改善計画の着実な実行により、財務体質の改善を図るとともに、経営基盤を強化し、より安定的な営業利益及び営業キャッシュ・フロー並びに当期利益の獲得を予定しております。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	630,747	361,423
売掛金	205,195	253,507
商品及び製品	135,806	106,711
原材料及び貯蔵品	48,759	55,622
その他	91,125	76,861
流動資産合計	1,111,634	854,126
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,224,486	1,231,812
工具、器具及び備品(純額)	120,093	129,411
土地	573,649	573,649
その他(純額)	37,345	49,348
有形固定資産合計	1,955,574	1,984,221
無形固定資産	147,994	147,759
投資その他の資産		
投資有価証券	75,977	86,196
長期前払費用	7,488	12,868
敷金及び保証金	679,507	639,080
その他	58,540	122,506
貸倒引当金	△18,346	△18,305
投資その他の資産合計	803,167	842,346
固定資産合計	2,906,736	2,974,327
資産合計	4,018,371	3,828,453
負債の部		
流動負債		
買掛金	159,360	169,636
短期借入金	366,569	314,623
1年内返済予定の長期借入金	223,446	103,423
未払法人税等	13,169	11,288
資産除去債務	5,200	6,165
その他	234,741	293,903
流動負債合計	1,002,486	899,039
固定負債		
長期借入金	2,720,601	2,665,226
資産除去債務	6,360	9,139
その他	138,620	149,966
固定負債合計	2,865,582	2,824,332
負債合計	3,868,068	3,723,371

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	505,002	505,002
資本剰余金	164,551	164,551
利益剰余金	△530,729	△581,552
自己株式	△53	△53
株主資本合計	138,770	87,947
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11,531	17,133
評価・換算差額等合計	11,531	17,133
純資産合計	150,302	105,081
負債純資産合計	4,018,371	3,828,453

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	3,859,299	3,571,948
売上原価	1,372,649	1,284,875
売上総利益	2,486,649	2,287,072
販売費及び一般管理費	2,398,063	2,296,686
営業利益又は営業損失(△)	88,586	△9,613
営業外収益		
受取利息	7,140	732
受取配当金	2,401	1,755
不動産賃貸料	134,024	129,874
受取保険金	1,199	3,561
その他	8,736	1,950
営業外収益合計	153,503	137,874
営業外費用		
支払利息	63,617	56,627
不動産賃貸原価	113,370	109,807
その他	823	8,737
営業外費用合計	177,811	175,172
経常利益又は経常損失(△)	64,278	△46,911
特別利益		
固定資産受贈益	—	8,593
投資有価証券売却益	47,702	—
店舗譲渡益	—	50,000
特別利益合計	47,702	58,593
特別損失		
固定資産売却損	13,685	—
固定資産除却損	1,251	490
店舗閉鎖損失	30,690	56,256
特別損失合計	45,628	56,746
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	66,352	△45,064
法人税、住民税及び事業税	8,019	5,758
法人税等合計	8,019	5,758
四半期純利益又は四半期純損失(△)	58,332	△50,823

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	飲食	物販	四半期損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	3,122,511	736,787	3,859,299
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	3,122,511	736,787	3,859,299
セグメント利益又は損失(△)	96,671	△8,084	88,586

(注)セグメント利益又は損失(△)は、損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	飲食	物販	四半期損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	2,902,143	669,805	3,571,948
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	2,902,143	669,805	3,571,948
セグメント利益又は損失(△)	1,905	△11,519	△9,613

(注)セグメント利益又は損失(△)は、損益計算書の営業損失と一致しております。